

藍よりも青く

今年の成人式のテーマは、「『染（そめる）』わたしらしく、あなたらしく」というものでした。20歳を迎えた自分たちの人生を一枚の布に例え、布には何色にも染められていないところがあり、それをこれからどんな色に自分らしく染めていくのか、それが大切だ、という思いを込めているとのことでした。

この『『染（そめる）』というテーマを聞いて、私は「藍染（あいぞめ）」を思い浮かべ、それにちなんで中国の格言を引いて祝辞を述べさせていただきました。中国の戦国時代末期の儒学者であった荀子（じゅんし）の有名な言葉です。すなわち、「青は藍より出でて藍より青し」。意味するところは、染料に使う藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となるということ。それを弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を越えることを言うことわざとして使われています。荀子は人間の本性は欲望的存在にすぎないと性悪説を唱えたことで知られていますが、それだけに、学問を修め、礼を知ることが大切であると説いています。人間は学問や努力により持って生まれた資質を越えることができ、指導者や師匠をしのぐ存在となることができる、と言っています。新成人の皆さまには、さまざまな場面でより高みを目指して努力を怠らず、人生という布を素晴らしき「青」に染めあげていただきたいと願っています。

『『染（そめる）』にちなんでもう一つ。高松にも200年以上の歴史を持つ染め物の伝統工芸が受け継がれています。「讃岐のり染」です。もち米からできたのりを使って染められることからこの名があり、鮮やかな色彩が特徴です。また、渋紙の筒袋に入れたのりを絞り出して描く筒描きは、手で引かれる自由で生き生きとした線が、布上に直接描かれることで温かみのある、味わい深い染め物が仕上がります。中でも讃岐の各地域の祭りに使われる獅子舞の胴体部分を構成する豪華絢爛（けんらん）な油単（ゆたん）の創作には、この「讃岐のり染」が欠かせないそうです。

このような伝統工芸の技術は、獅子舞などの伝統芸能とともに、世代を超えてこれからも継承されてほしいと願っています。併せて、「出藍（しゅつらん）の誉れ」（弟子がその師よりも優れていること）たる人や技術の出現を期待したいと思います。